

世田谷介護ネットニュース

第21号

発行日：平成 22 年 12 月 27 日
 発行：世田谷区介護サービスネットワーク
 事務局：世田谷区社会福祉事業団
 世田谷区福祉人材育成・研修センター
 連絡先：東京都世田谷区成城 6-3-10
 電話：(03)5429-3100

平成 22 年度 ネットワーク活動中間報告～今年を振り返って～

運営委員長 辻本きく夫

今年最後のネットニュースを発行するに当たり、運営委員会からネットワークの活動状況について報告いたします。

平成 22 年度の活動として 6 月 16 日の総会を初めとして、スポット研修 3 回、明日から役立つヘルパー研修 1 回、通所連絡会定例会 3 回、在宅介護経営部会学習会 2 回、訪問介護連絡会定例会 3 回など、年度当初の計画通り、順調に予定通りに活動を展開しております。これに加えて災害対策小委員会からは災害地図と災害時マニュアルの発行を行い、ホームページを改訂し、また、せたがや福祉区民学会で訪問介護連絡会の活動について発表しました。更にホームページ編集にあたって今年から会員枠と非会員枠を差別化することができました。

このように順調な活動が可能になったのは研修等へ会員の皆さまが積極的にご参加いただいた結果であると思います。紙面を借りて御礼申し上げます。

しかし、これらの活動の陰に運営委員の皆さまや各部会を支える幹事の皆様の方ならないご苦労があったことを会員の皆さまにも是非とも知って置いていただきたいと思っております。

総会でもお話ししましたが、平成 21 年の年末頃から会計事務を運営委員会で作ってほしいと事務局である福祉人材育成・研修センターから提案があり、運営委員会で協議の上、事務を引き受けることになりました。

しかしながら、当初は会計だけが事務移管になる

話であったのが、結果として研修等の資料の印刷や FAX 送信などを除く大半の事務が運営委員の肩に覆い被さることとなりました。

研修会場の予約や費用の払い込み、郵送物の宛名張りから詰め込み、配送シール貼り作業まで、運営委員会の議事録の作成、講師との交渉から講師謝礼の払込まで、研修等の案内状の作成など。日中それぞれの事業所でギリギリまで働いている上に、これらの作業を期日までに行うことがどれだけ大変なことかご推察ください。また、これに加えて研修センターの部屋を前月の 20 日頃までに予約できない上に使えない日が増えたことや、ベッドを使った排泄介助の研修が研修センターの都合でできなくなったこともありました。

このように事務局機能が縮小した現状では、現体制でこれまで通りの活動は困難であるように思います。来年度は、運営委員改選の年でもあり、運営方法の改善に取り組む必要があります。

このネットニュースが会員の皆さまのお手元に届くのは年が明けてしばらくしてからとなりますが、年内に作業することができなかつたためです。事情をご理解いただければ幸いです。



平成 22 年度上半期会計報告

		科目(単位:円)	
収入		会費収入	1,515,000
		その他雑収入	16,600
		前期繰越金	4,900,986
	収入合計		6,432,586
支出		事務費支出	220,162
		消耗品費	267
		印刷製本代	79,476
		通信運搬費	82,148
		貸借料	39,500
		雑費	840
		予備費	17,931
		講師謝礼	94,000
	支出合計		314,162
4～9月収入合計			6,432,586
4～9月支出合計			314,162
4～9月収支差合計			6,118,424

部会	予算	実績
運営	¥639,000	¥186,437
研修	¥282,000	¥50,295
訪問	¥60,000	¥27,210
通所	¥107,250	¥44,620
経営	¥140,000	¥5,600
合計	¥1,228,250	¥314,162

注) 総会後の 7 月上旬から 9 月末までの約 3 ヶ月間の活動状況です。今後は 12 月末締めでの中間決算の報告をする予定です。予算の執行率は、部会によって異なりますが、事業自体は順調に行われています。

連載 薬局からこんにちは(5)

～薬局成城ファーマシー祖師谷店 橋本孝子～

今回は飲みあわせについてのお話です。

ある研修で飲みあわせの話をする機会がありました。それ以降、ケアマネさんからワーファリンを服用している利用者さんが青汁を毎日飲んでいるけど大丈夫?...という問い合わせを何件か続けていただきました。

ワーファリンという薬は血液を固まりにくくして、血栓ができるのを抑える薬です。私たちの体の中では、血液を固める



るためにビタミン K が使われています。ワーファリンは、このビタミン K の働きを弱めることで血液を固まりにくくします。よってワーファリンを服用中の患者さんがビタミン K を多く含む食品をたくさん摂ると、せっか

く飲んでいてワーファリンの効果を打ち消してしまうことになります。ビタミン K は色々な食物に含まれていますが、とくに含有量の多い納豆や青汁などを摂ることは避けなければなりません。納豆の場合は納豆に含まれるビタミン K に加えて、納豆菌が腸内でビタミン K を作ります。

そのほかにもブロッコリー、小松菜、ほうれん草などの緑黄色野菜にも多く含まれているため、一度に大量に取ることはさけ、バランスの良い食生活をおくることが重要です。

ワーファリンを服用している患者さんには、初めて服用する時に説明を受けていてわかっているはず...と思いこんでいたので、このことには驚いたと同時に各患者さんにこまめに確認することが重要だと改めて感じました。

飲みあわせにはご注意ください！！

24 時間巡回・随時訪問サービス(2)【随時訪問における排泄介助の役割】

～ジャパンケアサービス 24 時間随時訪問サービス管理者 浦本和也～

要介護5 性別：男性 年齢：77 歳 世帯状況：家族同居（妻・娘） 疾患：血管性認知症、胃瘻造設、多発性脳梗塞、糖尿病、高血圧症 サービス開始 11 月

今回登場するご利用者様は病院から在宅へ戻られる方で、医療的な配慮が必要なご利用者様です。

介護支援専門員から頂いた看護サマリには下記のような記載がありました。

胃瘻造設が間もない為、頻回に下痢便、経管栄養を変えても泥状便が続き、排尿も 1 回の量が多量で尿漏れする事があったとのこと。また処置の時は抵抗がかなり強い為、2 名で行っている。また、こちらのご家族は介護に対する強い拒否（時には手が出たり、噛み付いたりする）の為、虐待の疑いがある「ご家族」との情報を頂いておりました。

退院後は 24 時間随時訪問サービスを開始、ケアコール機を設置したその日の内にオペレーションセンターへコールが入りました。16:20 奥様より「オムツの交換をお願いします」とコールが入り、オペレーターより「では、これからご自宅にヘルパーを向かわせます」というやり取りがされました。私のご自宅へ訪問した時には排尿が多量にあり、その時にはズボン、ラバーシーツ、その上に敷いてあった



バスタオルにも尿漏れがありました。サマリにもあったようにオムツ交換は、抵抗が強い為奥様に手を押さえて頂き手早く行いました。奥様は手を押さえる時は必死で、険しい表情であったと印象に残っていま

す。オムツ交換が終わった時点で、私から「後はヘルパー一人でできます」と伝え、奥様は隣のお部屋に行かれました。パジャマを整え、掛け布団を掛けようとした時、奥様が隣の部屋から入って来られベッドに近づき「本当、奇麗にしてもらって、気持ちいいでしょう」とうれしそうにご主人様に話かけられました。



在宅介護では家族の介護疲れによる虐待が深刻な問題を生じさせているかは、ご存知の方は多いかと思えます。その疲れが虐待の疑いを持たせているのではないかと思う瞬間はありました。

しかし、このように 24 時間随時訪問サービスで、ご利用者が必要な時に必要なだけのサービスを提供することにより、ご家族の負担も軽減できていると感じております。今回、私はこの経験を通して随時訪問の排泄介助が他のサービスの排泄介助とは違った可能性を持つサービスなのではないかと感じました。もちろん、様々なサービスの協力が無ければ改善は図れないことはわかっていますが、随時訪問のサービスはまだまだ可能性を秘めたサービスであることを示す一つの事例をご紹介させていただきました。

次回も事例を通して随時訪問サービスをご紹介致します。

世田谷区からのお知らせ

おう吐物の正しい処理が感染拡大防止の基本です

～ 感染性胃腸炎の流行警報発令中！～



東京都は、12月9日に都内感染性胃腸炎の流行警報を発令しました。

ノロウイルスは、非常に感染力が強く少量のウイルスが口に入っただけでも胃腸炎をおこします。ノロウイルスは患者のおう吐物や排泄物の中に多量に含まれるため、おう吐や下痢があった場合は、ノロウイルスによる感染性胃腸炎を疑って、感染を広げないための適切な処理が必要です。

1. 吐物・排泄物の処理方法

おう吐や下痢の現場を見つけたら、あわてて処理をしてはいけません。

窓を開けるなど換気して、使い捨てのエプロン、ゴム手袋、マスクをします。

ペーパータオルや新聞紙などで吐物等を取り除きます。

しぶきが飛び散った範囲(約2m)をペーパータオル等で覆い、0.1%の塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)をかけて10分ほど置いてから拭き取ります。

処理後のごみは、ビニール袋を二重にした中に入れます。0.1%の次亜塩素酸ナトリウム液をごみが浸る程度入れて空気を抜き、密封して可燃ごみとして出します。エプロン等も同様に処理します。

処理後は流水、石鹼による手洗い、うがい、顔洗いを十分行ってください。



2. 施設での役割分担と日ごろの取り組み

まず他の職員に知らせて、患者のケアをする職員 おう吐物等を処理する職員 他の利用者
をその場から遠ざけたり窓を開けたりする職員等に役割を分担して対応します。日ごろから担当を決めておくことや、おう吐物等の処理用具をひとまとめにしておくと、すばやい対応ができるのでお勧めです。

3. 健康管理とリスクコミュニケーション

患者のケアした人、嘔吐物の処理をした人、周囲の人に同様の症状がでないか、健康観察をします。そして普段から具合の悪い人がでていないか、現場の状況やそのリスクについて関係者が話し合い、再発防止のためのリスクコミュニケーションを心がけましょう。

相談・問合せ先 世田谷保健所感染症対策課

TEL: 03 - 5432 - 2441 FAX: 03 - 5432 - 3022

ケアマネジャー等対象の在宅医療研修

ケアマネや介護サービス担当者等を対象に在宅医療に関する知識技能の向上を目指した研修を開催します。

第2回 平成23年2月2日(水) 19:00~21:00 玉川区民会館集会室

(仮)在宅医療機器使用中の方への支援に必要な基礎知識

講師: 医療法人社団青い鳥会上田クリニック 斉藤康洋先生

このほか、口腔ケアや薬の基礎知識についても研修を予定しています。

前日までにお申し込みください

研修内容および申込方法についてはHPをご覧ください。

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/030/d00015037.html>

問合せ: 保健福祉部保健医療担当課

TEL 03 - 5432 - 2649 FAX 03 - 5432 - 3017



せたがや福社区民学会 事例発表報告

世田谷区介護サービスネットワークの事務局が同時に事務局を務めるせたがや福社区民学会が平成22年12月11日に日大文理学部で開催されました。世田谷区介護サービスネットワークからは訪問介護連絡会の代表宮川及び副代表の丸山が連絡会発足の経緯と活動内容について事例発表を行いました。

事例発表では、世田谷区介護サービスネットワークの紹介を行った後、訪問介護連絡会設立の意義と目的、発足以来の活動内容などを報告しました。

中小の事業所の多い訪問介護では介護の質向上のために協働で研修を行うことの重要さや事業者の質の底上げが必

要なこと、事務作業を効率化するために文書等をスタンダード化する必要性があることなどを説明し、また、これまでの活動の内容を具体的にお話ししました。

発表後には、世田谷区介護サービスネットワークの組織率をもっと高くすべきだとの意見もいただきました。

世田谷区介護サービスネットワークの知名度を上げ、会員を増やすことが今後の課題であると感じた一日でした。

訪問介護代表 オレンジケア 宮川英子



研修情報・イベント情報

【世田谷区介護サービスネットワークの研修】

1) 訪問介護連絡会平成22年度第3回定例会

平成23年1月21日(金) 18:30~20:30(定員50名)

会場:成城ホール集会室C・D

内容:「たくさん抱える利用者を支えるために」
~課題解決の実際を学ぼう~

独居、認知症、不衛生な環境、サービスの拒否、経済的困窮などの複合的な問題を抱えた利用者の事例をもとに課題解決の取り組み方、方法、基礎知識などについて学びます。

【世田谷区福祉人材育成・研修センターの研修】

1)世田谷区ケアマネジャー現任研修

平成23年1月20日(木) 13:00~17:00

定員:50名

会場:世田谷区民会館集会室

2)サービス提供責任者研修(実践)

平成23年2月16日(木)6時間予定

定員:40名

会場:世田谷区福祉人材育成・研修センター

3)指導的職員研修

平成23年1月18日(火)、19日(水)

定員:40名

会場:世田谷区福祉人材育成・研修センター



平成23年1月19日(水) 14:00~16:30、1月14日締切

場所:総合福祉センター3階研修室

講師:総合福祉センター理学療法士 近野一浩

問い合わせ先:総合福祉センター5376-3412(小林)

2)たすけっと 福祉用具ミニ研修

「気持ちの良い排泄の工夫」

日時:平成23年1月14日(金) 16:30~18:00、定員12名

場所:たすけっと

「自助具の工夫」

日時:平成23年2月3日(木) 15:30~17:00

場所:たすけっと

問い合わせ先:たすけっと 電話:5355-3451

3)若年認知症啓発講座「若年認知症と共に歩む」

日時:平成23年3月12日(土) 13:00~17:00

場所:目黒区総合庁舎 2階大会議室

主催:NPO法人いきいき福祉ネットワークセンター

共催:目黒区、後援:東京都など

問い合わせ先:主催者 電話:6808-8575 当日参加可

印の問い合わせ先は

世田谷区福祉人材育成・研修センター

電話:5429-3100

会員事業所の研修、イベントの情報を掲載します。ネットニュースは、隔月奇数月に発行します。希望者は、事前に事務局にお問い合わせください。ただし、掲載できるのは非営利の研修、講演会、イベント等に限りです。

【その他のイベント】

1)Sofuku 講座「身体介助(立つ、歩く、起きあがる)を考える」

編集担当から

今年最後のネットニュースを作成しました。皆さまにとって今年はどうな年だったでしょうか。

この紙面が皆さまに届く頃には新年が始まっているでしょう。平成23年は卯年。「うさぎは跳ねる」というように

飛躍の年になることを広報小委員会一同祈念しております。

今年在世田谷区介護サービスネットワーク運営委員改選の年です。本文に書かれているとおり、本会を発展させるには運営強化が必要です。是非、運営委員としてお力をお貸しください。お待ちし

ております。新しい運営委員のフレッシュな発想が必要です。

問い合わせ先

世田谷区社会福祉事業団

世田谷区福祉人材育成・研修センター

電話:03(5429)3100、FAX:03(5429)3101